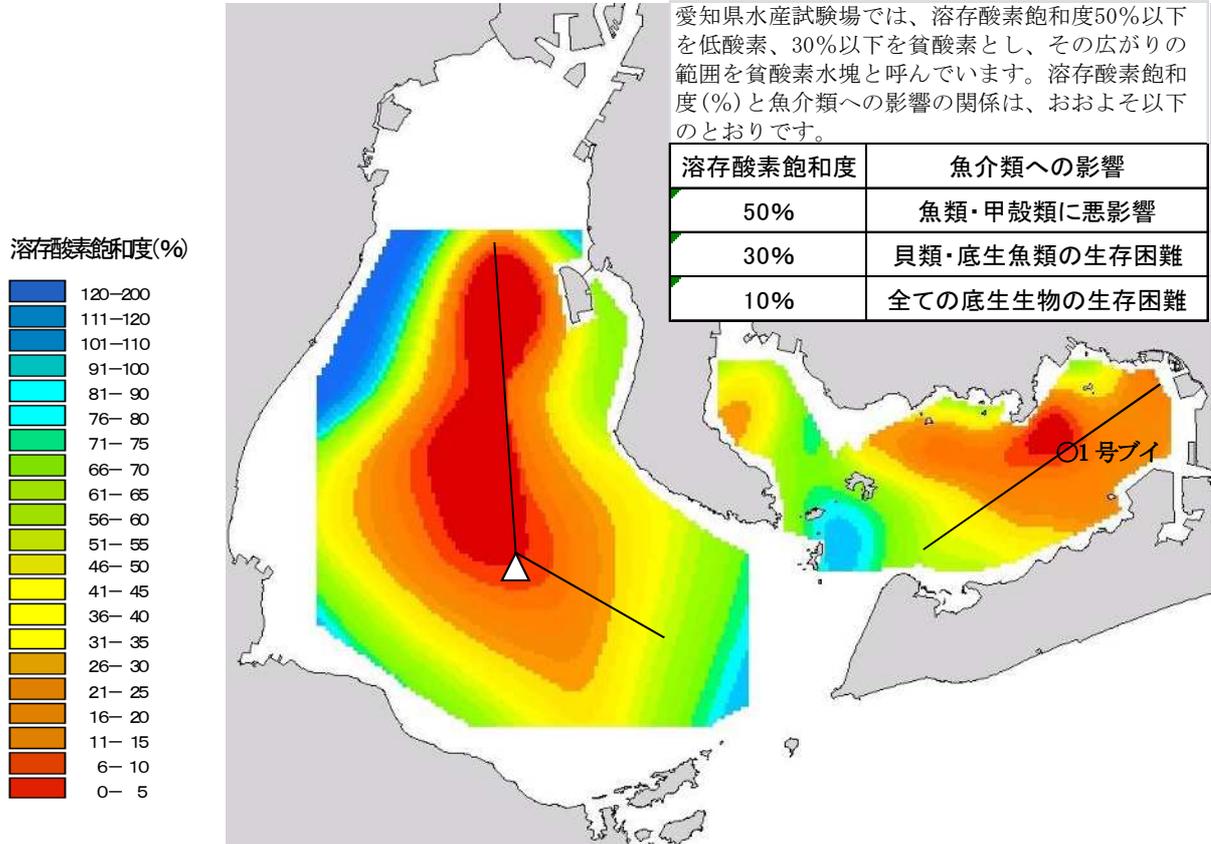


伊勢・三河湾貧酸素情報 (R1-5号)

令和元年7月8日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和元年7月1、2、4日に伊勢湾、7月4、5日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は下記のとおりです。



伊勢湾奥

湾口

三河湾奥

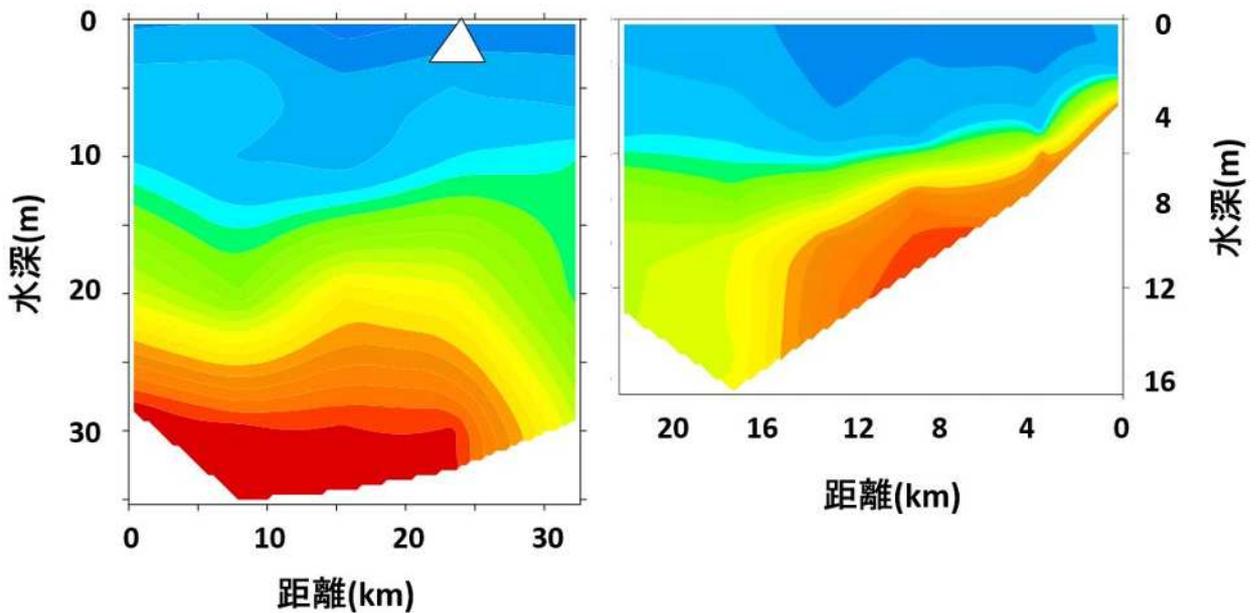


図1 伊勢湾(7月1、2、4日)・三河湾(7月4、5日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「海幸丸」、「へいわ」調査)

伊勢湾

7月1、2、4日の調査結果を図1に示しました。前回調査（6月20、21日）に比べ、伊勢湾の湾中部で貧酸素水塊が拡大していました。

今後は、表層の水温上昇と梅雨の影響を受けた塩分低下にともなう成層化により、海水の上下混合が起きにくくなるため、貧酸素水塊がさらに拡大すると考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	23.0~25.1	13.6~30.7
底層	17.3~23.0	26.7~33.8

三河湾

7月4、5日の調査結果を図1に示しました。前回調査（6月25日）に比べ、渥美湾全体に貧酸素水塊が拡大していました。知多湾では美浜町沖で貧酸素水塊が確認されました。

三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ（蒲郡沖）のデータをみると、7月2日から底層で徐々に溶存酸素飽和度が低下し、貧酸素の層が厚くなっている様子が観測されています（図2）。

今後は、表層の水温上昇と梅雨の影響を受けた塩分低下にともなう成層化により、海水の上下混合が起きにくくなるため、貧酸素水塊が発達すると考えられます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	23.6~26.2	18.2~31.4
底層	21.2~24.4	30.5~32.8

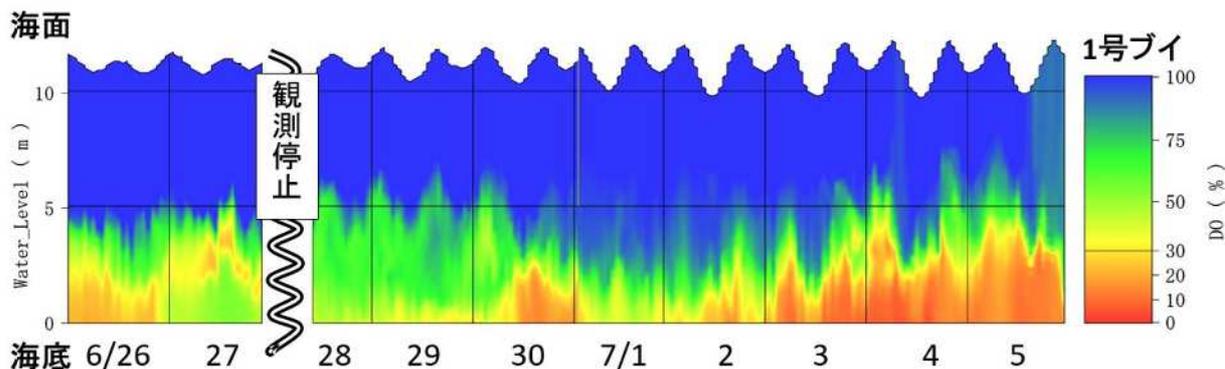


図2 溶存酸素飽和度 (DO) の経時変化 (三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況 (図3)

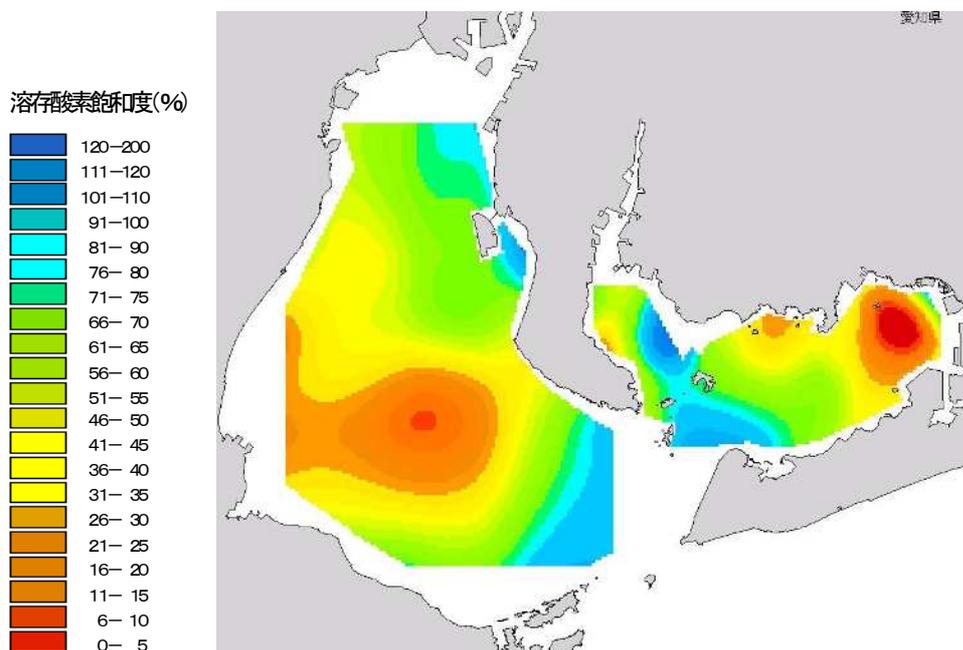


図3 令和元年6月20、21日 (伊勢湾)、6月25日 (三河湾)